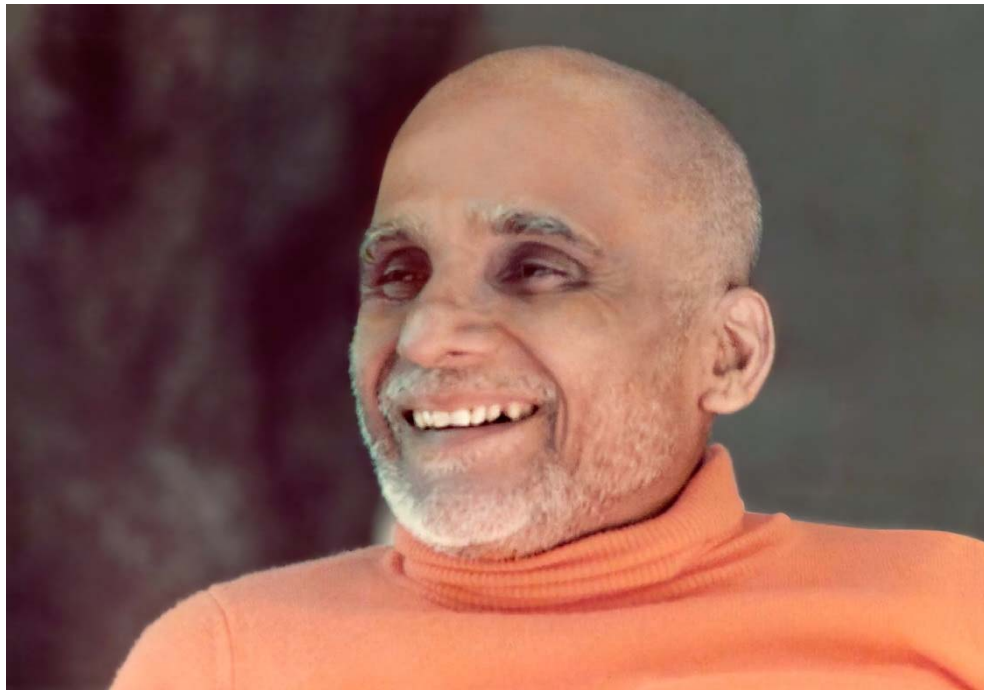


相反する力

Contradictory Pulls

2022/11/23 版



スワミ・クリシュナナンダ 著

The Divine Life Society

Sivananda Ashram, Rishikesh, India

ウェブサイト： <http://www.swami-krishnananda.org>

他の和訳： <https://yogajbooks.wordpress.com/>

(1995年11月28日のダルシャンでの会話)

訪問者： 私たちは相反する二つの方向へ引っ張られている。スワミジはそう言われました。一方で私たちは、私たちは自分の立場、考えを明確にすべきであり、そのような考え方は間違っていないはずだと言います。しかし、もう一方向へ引かれる私たちは、起こることはすべて正しいことであり、個人的な見方をすべきではないと言います。この二つをどう理解すればよいのですか。

スワミジ： そのような立場を取ることはできない。正しいものの見方をできない立場にいる者が、起こることはすべて正しいとは言えない。あなた自身が正しい見地にいないのだから、そのような考えは、あなたの実生活には無関係だ。

訪問者： どうすれば正しい見地に立てますか。

スワミジ： 自分の人格をなくして、至高の存在と一体にならないかぎり出来ない。そのような状態に到達するまでは、あなたが言ったような考え方は無意味だ。起こることのすべてが正しいというのは正しくない。間違っていることもある。あなたが究極的実在から分離されているために、すべてがポジティブであると同時にネガティブなのだ。すべては正しいと誰が言ったのかね。相反するものからなる世界で、そのような発言が正しいとは言えない。この世界では常に何か間違っていて、何か正しい。

訪問者： しかし、私たちは何が正しくて、何が間違っているか分かりませんから、自分の立場を決められません。

スワミジ： 自分にも他人にも害を与えないもの、自分や他の人々の幸福のためになるもの、そのようなものを正しいものと見なすことができる。自分が危害を受けても、他人が危害を受けてもいいけない。正しい常識が必要とされる。常識を働かせねばならない。自分が危害を受けてもいいけないし、他人が危害を受けてもいいけない。

訪問者： しかし、長期的にみると異なる結果につながることもあります。

スワミジ： そのために常識を使わねばならないのだ。自分がどのような判断に基づいて行動しているかが分かっているならば、自分の行動がもたらす結果は分かる。行為の結果が分からない人はいない。少しでも常識がある人なら、何かをしたら、どうなるのかは分かる。自分の思考力で判断することができる。理性を働かせることができる人なら、行為によって生じる結果は、ある程度明らかはずだ。

訪問者：しかし、私たちの周りには他の人たちが多くいます。

スワミジ：それでいいではないか。自分以外に誰もいない世界に一人でいたいのかね。

訪問者：それは無理です。

スワミジ：だったら、それを問題にして何になるのかね。

訪問者：では、このような生活環境にいる私たちは、どのようにして自分を正しい立場に置くことができるのでしょうか。

スワミジ：すでに言った通りで、どのような行動をしようとも、悪い影響を及ぼすものであってはならない。そして、あなたの行動がどのような影響をもたらすかは、理性を働かせれば分かる。まったく理性がない人はいないはずだ。多少なりとも教育を受けていれば、何かをすればどうなるかは分かるはずだ。動物でも分かっている。

あなたの質問は一般的で漠然としている。実際的でなく、要点を押さえていない。質問は現実に即して的確を射たものであるべきだ。なぜ漠然とした哲学的質問をするのかね。なにが問題なのかをはっきりと言いなさい。一般論をして何になるか。

別の訪問者：近親者が亡くなりました。

スワミジ：亡くなった人のことを嘆き悲しんでいてはいけない。それは亡くなった人のためにならない。ネガティブな影響を与えていることになる。あなたは亡くなった人に執着している。そのため、故人の魂を自分のレベルへ引き戻そうとしている。肉体を脱ぎ去り、転生しようとしている者を、なぜあなたの想いで呼び戻そうとするのかね。人はみな、故人のことを私の息子、私の娘、私の夫、私の妻というように、自分の^も所有物だと感じているからだ。人がこの世を去るとき、あなたがその人を所有していなかったことが明確になる。あなたは亡くなった人が自分のものだという間違っただけの考えを持っているが、その人が旅立ったことが、故人はあなたのものではなかったことを証明している。その事実を理解せず、気に病み続けるのは良くない。逝った人のことを考えるべきではない。神に祈り、強くなりなさい。バガヴァッド・ギーターを読めば強くなれるだろう。そうなることが、あなたの家族にも、そしてまた、あなた自身にとっても良いことなのだ。

別の訪問者：私は演劇の役者をしています。自分の思考と感情を見つめ、そしてその後再び自分の感情や思考に熱中するといった具合です。私の状態は変化します。あるときは感情を傍観し、あるときは感情に巻き込まれます。

スワミジ：何事にも感情的になってはいけません。知的、哲学的、科学的な傍観者でなくてはならない。哲学的で科学的な傍観者が感情的に巻き込まれることはない。感情的な関わりを持つと、その人は行為者になってしまい、傍観者ではなくなる。そのような演劇に関与する役者になりたい、それが良いことだと思うのであれば、すればよい。しかし、自分にとって良いものではないのなら、そのような演劇を見なければよい。なぜ観るのかね。

一つだけ言うておくと、俳優の演技を観るときには、どうしてもその演技に巻き込まれる。よほど知的で科学的な人でないかぎり、感情移入してしまう。感情があれば当然感じるのだから、巻き込まれないわけにはいかない。それなら何も見ずに静かにしていなさい。なぜ観るのかね。

あなた自身が俳優だ。あなたが演技をしているとき、それを観ているは誰かね。あなたの演技を見た人は、演技を気に入るかもしれないし、好みではないかもしれない。自然なことだ。それに何も問題はない。演劇は芸術であり、どのような芸術にも感情に訴える側面がある。問題は、あなたがそれによって良い影響を受けるか、それとも悪い影響を受けるかだ。

たとえば、悲劇や喜劇というものがある。悲劇を観るとき、あなたの心は特有のプロセスを経験する。まるで自分自身がその悲劇を経験しているように感じるのだ。シェイクスピアのハムレットやオセロ、リア王などはすべて悲劇だが、これらの劇を演じる俳優を観るとき、あなたは、あなた自身がハムレットや父王になった気持ちになったりする。

アリストテレスは芸術の偉大な哲学者だったが、演劇学にも通じていた。アリストテレスは、悲劇を観て私たちの心が乱れるとき、私たちは、演劇というアートによって表面化された、私たちの内に秘められた自己の人生の一側面を経験しており、私たちがすでに心の内に持っているが、日常生活のなかでは表に出すことが憚られるために出せていない悲痛な想いを表に出すことで、悲しみという病が治癒するのだと言った。劇場で演劇を観ることによって、あなたはその演劇を内面的に経験するのだ。あなたの心の内にも潜在している悲劇が表面化することで、その後それによって苦しめられることがなくなるので、ある意味良いことだとアリストテレスは言っている。予防接種^{ワクチン}のようなものだと言える。ワクチンとは、本当に病気にならないように、自分の体に病気を少し取

り込むことだ。悲劇を経験したくはないが、他人の悲劇を観ることはできる。そして心理的にはその悲劇を実際に経験し、実生活で苦しむことはなくなるというものだ。感情がこれらの可能性が消すのだ。これは演劇の背後にある心理学だが、この辺で止めておこう。今話したことで十分だと思う。

— OM —